P121

学習のポイントの解答例

1 次のように返り点を施された文は、どのような順序で読むか、□に番号を入れてみよう。

(1) □ □レ □ □レ □レ □。
(2) □レ □二 □ □二 □ □。
(3) □二 □ □一 □二 □ □一。
(4) □レ □ □二 □レ □。
(5) □下 □二 □ □一 □下 □。

【答】(1) 1 3レ 2 6レ 5レ 4。
(2) 6レ 5二 1 4二 2 3一。
(3) 3二 1 2一 5二 6 4一。
(4) 2レ 1 6二 3 5レ 4。
(5) 8下 3二 1 2一 7下 4 6レ 5。

2 次の文を、書き下し文に改めてみよう。

(1) 聞レ一(キイテヲ)以知レ十(テルヲ)。
(2) 遂(ツヒニ)迷(マヨヒテ)不二復得一レ路(みちヲ)。
(3) 得二天下(テンカノ)英才一而教二育之一(これヲスクフニ)。
(4) 君子欲下訥(トツナラント)二於言一而敏上於行(ニヲコナフニ)。

【答】(1) 一を聞いて以て十を知る。〔物事の一部を聞いただけで全部を理解できる。〕（「論語」公冶長）
(2) 遂に迷ひて復た路を得ず。〔そのまま迷ってしまって、もう二度と道を見つけることができなかった。〕（桃花源記）
(3) 天下の英才を得て之を教育す。〔天下の優れた人材を集めて教育する。〕（「孟子」尽心上）
(4) 君子は言に訥にして行ひに敏ならんと欲す。〔君子は口は重くても行動は敏速でありたい。〕（「論語」里仁）

3 次の読み方に従って、白文に訓点を施してみよう。

(1) 陰徳有る者は必ず陽報有り。
　陰徳有者必有陽報
(2) 虎穴に入らずんば虎子を得ず。
　不入虎穴不得虎子
(3) 夏の虫は与に寒を語るべからず。
　夏虫不可与語寒
(4) 天下水より柔弱なるは莫し。
　天下莫柔弱於水
(5) 悪の小なるを以て之を為すこと勿かれ。
　勿以悪小而為之

【答】(1) 有二陰徳一者必(ハヅ)有二陽報一。
〔人知れず善行を重ねる者には、必ずよい報いがあるものだ。〕（「淮南子」人間訓）
(2) 不レ入二虎穴一(ニ)不レ得二虎子一(ヲ)。
〔危険を冒さなければ、大きな収穫をあげることはできない。〕（「後漢書」班超伝）

(3)　夏虫不レ可二与語一ヲ寒。
〔夏の虫とは、冬の寒さについて一緒に語ることはできない。〕
（「淮南子」原道訓）

(4)　天下莫二柔二弱於水一。
〔天下に水より柔弱なものはない。〕（「老子」第七十八章）

(5)　勿レ以二悪小一而為レ之。
〔悪いことは、それがどんなに小さいことだといっても、してはならない。〕（「三国志」蜀書・先主伝注）

言葉と表現の解答例

1　**次の四字熟語について意味を調べ、訓読してみよう。**

(1)　**朝令暮改**　(2)　**呉越同舟**
(3)　**傍若無人**　(4)　**臨機応変**
(5)　**以心伝心**　(6)　**不倶戴天**

【答】　(1)　朝、命令をだして、夕方にはそれを変更する。むやみに命令や法律を変更すること。
〔朝に令し暮れに改む。〕

(2)　仲の悪い者どうしが同じ場所に居合わせること。また、仲の悪い者どうしが共通の利益のために手を結ぶこと。
〔呉越舟を同じうす。〕（「同じくす」でも可）

(3)　周囲の人の目など気にせず、勝手気ままに振る舞うこと。
〔傍らに人無きがごとし。〕

(4)　その場その場の状況に応じて適切に対処する。
〔機に臨み変に応ず。〕

(5)　自分の気持ちを相手の心に伝える。禅宗の言葉で言語や文字を用いないで、心から心に伝えて自ら悟らせること。
〔心を以て心に伝ふ。〕

(6)　同じ天の下に生かしてはおけないほど、深く恨むこと。
〔倶には天を戴かず。〕

（宮　利政）